

第十三章 ロータリークラブ

私のロータリーライフと「会長の間」

小野青年会議所を卒業した翌年の五十七年六月、税理士の大先輩で、小野ロータリークラブの会長であった土井康二郎先生のお勧めで、小野ロータリークラブに入会させていただいた。現在まで三十年間在籍している。

私が、ロータリークラブの活動に賛同し、長く在籍してきた第一の理由は、ロータリークラブは、「奉仕の理想」Ideal of Serviceとゆう理念に基づき、「超我の奉仕 Service Above Self」を實踐し、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕を實踐していることである。

特に、ロータリークラブの奉仕で特徴的なことは、自己の職業である事業 Business や、専門職業 Profession を通して奉仕を行う「職業奉仕」を奉仕の心棒に据え、それを貫くのは、職業倫理 Vocational Ethics と「利他自利」の精神であると考えていることである。

つまり、一人ひとりの会員は、自己の職業 Vocation Occupation を通して職業倫理を實踐し、

世の中の役にたつことをすれば、回り回って自分にもよいこと Profit Benefit があるという強い信念を持って行動していることである。

ロータリークラブに長く在籍してきたもうひとつの理由、それは「親睦 Fellowship」である。「ロータリーは親睦に始まり、親睦に終わる」といわれる。「奉仕の理想」を追求し、「超我の奉仕」を実践するために、会員相互の親睦と友情を大切にし、楽しいクラブライフを続けている。

入会して十六年目、五十七歳の平成十年七月から十一年六月まで、小野ロータリークラブの会長を務めた。この間に多くのスピーチ原稿を書いている。すべてクラブライフの話であるが、ご覧いただいた方の中から、一人でもロータリークラブへの入会者が増えることを期待して掲載する。「会長の時間」として、例会ごとに行ったスピーチの要約である。

七月一日 本年度が、小野ロータリークラブ創立四十周年の前年であることを念頭に置き、世相は不景気で閉塞感で一杯であるけれども、私たちのロータリークラブは会員相互の親睦に重点を置き、バランスのとれた活動をしたいと考えています。

本年度の R I (国際ロータリー) のテーマは「ロータリーの夢を追い続けよう」。

Followw Your Rotary Dream です。私は、永年「夢とロマン」を訴え続けてきました。J



会長の時間

C時代には「行動で示そう青年の夢とロマン」をテーマに事業を展開しました。中学校や高等学校のPTAのお世話をさせていただいた時には「春風や闘志抱きて丘に立つ（虚子）」の俳句を紹介して、生徒諸君に「夢とロマンを持つて積極的に人生を歩んでほしい」と激励のエールを送りました。そして、ロータリークラブの会長年度のRIのテーマが「ロータリーの夢」です。

二十一世紀まで千日を切り、世相は混沌として、その上、閉塞感で一杯であります。こんな時だからこそ、私たちロータリアンはみなで力を合わせ、友情を深め、親睦活動を行い、奉仕の心を学び、ロータリーのモットーである職業奉仕を実践しようではありませんか。

七月八日 自分の能力を信じて抱く誇りを矜持きやうぢと言います。今日の日本の政治・経済・社会はすっかり矜持を失い、暗雲の中を右往左往しています。

現在の日本は、アメリカの外圧を借りてなお、金融システムの再構築、税政改革、通貨防衛等いかなる政策をも実

施できないなさけない国になってしまっているのです。経済大国日本、債権大国日本、この国のエネルギーはどこへ行ってしまったのでしょうか。

七月十五日 今日、私の好きな作家の一人で『青春の門』以来ほとんどの著作を読んでい
る五木寛之の最新刊『大河の一滴』について話してみます。

「人は泣きながら生まれ、ひとりて死ぬ。一滴の露が大河に合流して海に還るように」とい
う意味で名付けられた標題ですが、「人生は苦しみと絶望の連続だ。地獄はいまここにある。
その覚悟が定まったとき真の勇気がでてくる」。このような内容の本です。

ところで、現在は世界中が資本主義と自己責任の大競争時代となり、何だか最悪の時代を迎
えているように思います。私たちのような年配の者は、生まれてから死ぬまでの長いながい生
涯を生きていかなければならないこれからの若い人達に、夢と希望を与え、生きる実感とい
うか、人生の苦しみと絶望を乗り越え、生老病死に勇気をもって向き合うことの大切さを、自
分の経験とともに語り伝えなければなりません。

最近の鬱陶しい世の中で、人生半ばでの自殺や乾いた人間関係からくる親子殺人事件の話を
聞かされたとき、生きるということ、死ぬということ、はどちらも大変なことだなあと感じます。
気の滅入ったとき、生きる勇気の本です。ご一読をおすすめいたします。

七月二十二日 「ロータリーの綱領」は、事業が成り立つ基盤として奉仕の理想を奨励し、育てていくことを表しているロータリーの原点であり黄金律ともいえるものです。

綱領の第一は、クラブ奉仕について触れ、奉仕の機会として知り合いを広めることを述べています。綱領の第二は、職業奉仕について触れ、その内容を、職業上の倫理基準の高揚、他の職業の価値を認めること、各自の職業を社会奉仕の基盤とするために尊いものたらしめることとしています。綱領の第三は、社会奉仕の実践について述べており、綱領の第四は国際奉仕の実践について述べています。

ここで大変重要なことは、これらの奉仕の理想の実践を、一人ひとりのロータリアンに奨励し、育成しようとしていることです（英文綱領の朗読と抄訳）。

七月二十九日 先週の例会で、英文のロータリーの綱領の抄訳をしながら、ロータリーの綱領はそれぞれのロータリアンに「奉仕の理想」を奨励し、育てていくことを要請しているところに特徴があると申し上げました。

他にもう一点私の思いを付け加えてみますと、綱領の中に Good will という言葉が出てまいります。「善意」と訳せばいいでしょう（日本語訳は文脈上親善となっています）。善意は「思いやりのこころ」であり、ジェームス・L・レイシー会長はこの言葉を多用しています。

善意は「奉仕の理想」と同様すばらしいことです。善意を与える者、善意を受け取る者、ここに醸成される自己と他人の関係、これこそロータリアンとして、いや一個人の人間としても大変すばらしいことだと思います。改めて、素晴らしい綱領だと思います。

八月五日 今日「無財の七施」という話を致します。私たちは八月十五日を中心に盂蘭盆会といつて先祖の霊を祀るお盆の行事を行います。大抵の家では、八月十三日夕方、迎え火で先祖の霊をむかえ、種々の供物をし、お経をあげ、先祖の冥福を祈ります。この間に、棚経といつて菩提寺の僧侶のおまいりがあり、十六日の夕方には、送り火を焚いて、先祖の霊をお送りいたします。

棚経と言えば、僧侶に差し出す金銭のことをお布施と申します。布施というのは、布施行と申しまして、他人に何かを差し出すことによって、自分に幸せが戻ってくるという仏教の教えをいいます。

これは、財施と言つて財物を差し出すことをいいますが、法施と言つて他人に仏法を説き聞かせることや、無畏施と言つて一切の衆生に畏怖おそれの念を取りのぞく布施もあり、これを三施と言います。

顔施と言つて、顔でする布施もある。眼施と言つて、眼でする布施もある。言葉でする布施

もある。肉体労働や好意でする布施だつてある。これらを無財の七施と言います。皆さんは、困っている人や、病んでいる人に対するやさしい顔、慈愛のこもった眼、とげのない言葉、ちよつとした思いやりのある仕事を示すことによつて、お互いの気持ちが変わらぬことを、これまで何回も経験されたことがあると思います。これつて布施の心なんだなあと思っています。英語の Good will や Volunteer というのものを表しているのではないかと思ひます。

八月十九日 一年を五日ごとの七十二候に分け、それぞれの時候につけた名称を七十二候と言ひますが、それによりますと、新暦八月十八から二十二日ごろを「寒蝉鳴くかんせん」と言ひます（寒蝉は、ひぐらしのことを言ひます）。

ひぐらしは秋口に鳴く蝉ですから、やつと暑い夏が終わり、秋に入ったという訳です。今日は、ひぐらしの録音を取つてこようと思ひましたが、出来ませんでしたので変わりに鈴虫の声を BGM として流しています。

挨拶のはじめに季節を語ることとは心なごむことの一つでしょう。四季折々の草木や作物、虫や鳥をとりあげることと季節の移り変わりを感じ、過ぎゆく時を感じるといふ訳です。

八月二十六日 RI 会長のジム・レイシー氏は、二十一世紀を目の前にして、国際ロータリー

とロータリー財団の未来を探るために、ロータリアン並びに、未来のロータリー・プログラム、活動、組織機構について提案を求めています。

私たち小野ロータリークラブは、九月定例理事会で承認後「SAVE THE GLOBE」、「地球の危機を救おう」を国際ロータリーに提案いたしたいと思えます。

九月二日 今日、RI（国際ロータリー）の月間について話します。現在RI理事会が指定している「月間」は識字率向上月間（七月）、会員増強及び拡大月間（八月）、新世代のための月間（九月）、職業奉仕月間（十月）、米山月間（十月）ロータリー財団月間（十一月）、ロータリー理解推進月間（一月）、世界理解月間（二月）、雑誌月間（四月）の九つあります。

月間について語ることは会長の重要な任務だと考えられていますので、今日は識字率向上月間（七月）と新世代のための月間（九月）について触れ、その他の月間は折々に話すことにします。（以下省略）

九月九日 今日は九月九日、「救急の日」です。前の九月一日は「防災の日」でした。大正十二年九月一日午前十一時五十八分、マグニチュード7.9の地震が関東地方を襲いました。東京では一四〇〇一五〇カ所から火事が起こり、水も、電気も止まって大混乱の末、二十三万

人の死傷者が出ました。(中略)

小野市の伝統産業で、一番最近まで肥後守を製造されておりましたのは西尾会員のお父さんです。西尾会員から、西尾常次商店特製「常盛印肥後守」五十五丁をプレゼントしていただきましたのでみなさまにお配りいたします。ホイッスル(笛)とともに、常に車の中にいれておき、交通事故の被害に遭った時、車からの脱出に役立ててください。

九月十六日 今日、西宮恵美寿ロータリークラブチャーターナイト参加の件についてご案内申し上げます。二六八〇地区では、平成五年四月に宝塚中ロータリークラブが創立されて以来五年ぶりのチャーターナイトです。つまり、入会五年未満の会員はこのクラブのチャーターナイトにも参加された経験がありません。

一度もチャーターナイトに参加したことがないというのはロータリーの真の感激を味わっていないと言っても過言ではありません。例会場では味わえないロータリアンとしての感銘を、チャーターナイトに参加して肌で味わっていただきたくとともに、新クラブ創立をお祝いしたいと存じます。

九月三十日 七月二十二日の例会において、英文によるロータリークラブの綱領の日本語訳

について英文逐語訳を交えながらお話を申し上げました。今日は、日本語による宣言文を逆に英訳して、これをロータリークラブの綱領にするよう提案しようとしたお話を申し上げます。

日本で初めて、ロータリークラブが創立されましたのは一九二一年（大正十）四月一日、東京ロータリークラブであります。その後、クラブ数は順調に増え、一九二八年（昭和三）十二月、旧満州国の大連にロータリークラブができ、初代会長は満鉄総裁の松岡洋右さんでした。このメンバーの中の当時日清製油取締役支店長でありました古沢文作さんという方が、日本語で五カ条からなる倫理宣言を「大連クラブのロータリーの宣言」としてまとめられました。

八年後の一九三六年（昭和十一）に神戸で行われた第七十地区大会で神戸ロータリークラブの直木太一郎さんが、大会宣言としてこの大連クラブのロータリーの宣言を採用せよと動議を出されました。

議場ではこれをさらに英訳して、ロータリークラブの綱領に正式に提案すべしとする賛成派の主張がなされました。これに対して議論は沸騰いたしました。結局中間派の仲裁が入り、これは正式のロータリーの綱領を修正するものではなく、むしろその意味内容を補充するものであるから、このまま地区大会の宣言として採用することで結論に達しました（小堀憲助著 重訂版ロータリークラブ 六十五ページ）。なお、ロータリーの綱領が現在のようになったのはこの一年前の一九三五年（昭和十）のことでした。

大連クラブのロータリー宣言は、ロータリーの綱領を翻訳によらないで日本流に表現したすばらしい宣言ですので読んでみたいと思います。古い文体ではありますが私たちが日本人の言葉として心に響きわたり、これぞロータリーの原点と感じ入ります。

大連クラブのロータリー宣言

第一、須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因つて世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。

第二、成否を曰くに先立ち退いて義務を尽さむことを思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せむことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。

第三、あるいは特殊の関係をもつて機会を壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す、これ吾人の最も忌むところなり、吾人の精神に反してその信条を紊るは利のため義を失うよりはなほだしきは無し。

第四、義をもつて集まり、信をもつて結び、切磋し琢磨し相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。しかれども党をもつて厚くすることなく他をもつて拒むことなく私をもつて党

する者にあらざるなり。

第五、従爾なる角逐と鬭争とは行なわるべからず、協力をもつて博愛平等の理想を實現せざるべからず、しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す吾がロータリーの崇高なる使命ここに在り、その存在の意義またここに存す。

十月七日 十月は米山月間です。後ほど米山奨学生楊芳瑜さんの卓話が計画されています。米山記念奨学事業に関する卓話は過去に何回も行われていますので、今日は、日本のロータリー活動の創始者米山梅吉の生涯について話をいたします。(以下省略)

十月十四日 本日は来る十一月四日に実施される谷水ガバナリーの公式訪問を迎えるに当たつてのクラブ協議会(クラブアッセンブリー)です。お手許の公式訪問報告書に従いまして、幹事からクラブ概況報告等のご説明を申し上げます。(以下省略)

十月二十一日 今日は卓話に芦屋川ロータリークラブの田中毅バスタガバナリーを講師にお迎えいたしております。田中P Gは、平成八年～九年(九六～九七年)には二六八〇地区のガバナリーを務められました。また、芦屋川ロータリークラブの生みの親でもあります。

その語り口と論述は実に明解で分かり易く、ロータリーの理論と思想を広く会員に教化し普及されているロータリーの大実践家であります。私は、たとえば必ずしも適切ではないかも知れませんが、五木寛之の描く、浄土真宗中興の祖「蓮如」のような方だと思っています。今日はロータリーを最も端的に表していると言われる「ロータリーの綱領」についてお話を伺うことになっています。どうかよろしくお願い申し上げます。

十月二十八日 十月は職業奉仕月間です。既に職業奉仕のフォーラムを実施してその理解を深めました。それらを総括して私の所感を申し述べたいと思います。

ロータリーの職業奉仕は一言でいいますと「職業を通じて社会に奉仕する」ということになってでしょう。それでは職業奉仕という職業とは一体何を指しているのでしょうか。

一般的に英語で職業を表す言葉は、オキュペイション (occupation) という言葉を用います。これは occupy 占領するという意味からきた言葉です。つまり一日二十四時間のうち八時間を職業に占領されているという訳です。

ビジネス (business) という言葉は busy 忙しいという意味からきた言葉です。せっせ、せっせと忙しく走りまわるといいうわけです。

プロフフェッション (profession) は profess 主張するという言葉からきた言葉です。頭脳

を用いる仕事、専門的技術職を言います。

ロータリーの会員は business and professional person (事業と専門職務に携わる人) と言っています。ロータリーでは職業という意味にボケイション (vocation) という言葉を用いています。これは天職、神のお召しという意味です。

コーリング (calling) という言葉もあります。これも天職や神様のお召しを意味しますが、もともと王の命令によって従事させられる職業を言います。

ワーク (work) という言葉もあります。働くこと、主に肉体労働を言います。

トレード (trade) という言葉もあります。普通、貿易という意味に使われていますが、手職業や手仕事を指しています。

以上のように英語ではたくさん言葉がありますが、ロータリーの職業奉仕は Vocational Service のことを言います。つまり、自分の職業を神様の声、天職と心得て、奉仕しよう。更にもっと言えば、良質の職業人がお互いに切磋琢磨して職業に打ち込む、金儲けも名声も忘れてただひたさらに自分の vocation に打ち込む、これがロータリーの職業奉仕なのです。このためにロータリアンは業界の第一人者になろうと心掛けなければなりませんし、すすんで業界の役職をも引き受けなければなりません。

私は、ロータリーの職業奉仕とは、ロータリアン一人ひとりが、その意義と定義を自分なり

に理解して実践し続けることができれば、知らず知らずの内に身につくものだと思います。しかし、そのために勉強しなければなりません。

十一月四日 本日は谷水清司ガバナーの公式訪問です。ガバナーより懇切なご指導を受けることが出来ましたことに感謝をいたしております。

次に、本年度は小野ロータリークラブ定款第四条第二節に定める年次総会を十二月二日に予定をいたしております。(以下省略)

十一月十一日 先週の十一月四日は谷水ガバナーの公式訪問でした。ガバナーから目の醒めるようなすばらしいことだと高く評価をいただきました地球環境問題に対するクラブからの提案が、英語版ロータリーの友 十一月一日号に掲載され、引き続きTHE ROTARIAN誌にも掲載されましたことをお知らせいたします。

THE ROTARIAN誌は、全米及び全カナダの各クラブの全会員に購読を義務付けられている雑誌で、発行部数五十二万部(全世界の英語圏会員の購読を含む)を誇っています(手続要覧二十一ページ、My Friend 八十一ページ)。

この国際ロータリー公式雑誌であるTHE ROTARIAN誌の本年十月号に私ども小野ロータ

リークラブが社会奉仕委員会の事業として取組んでおります環境問題に対する提案が「Let's turn deserts into forests」の標題でほぼ原文通り（編集者が表現を簡潔にするため、一部省略している部分がある）掲載されました（THE ROTARIAN Oct、五十八〜五十九ページ）。

十一月十八日 「控えめに生きる幸せ 根深汁」。先週の出来事でありませんが、中学時代の恩師から玉葱の苗の入手に苦勞しているので君の伝手で何とかならないかとの依頼を受けました。私は前幹事の石井さんはじめ、何人かの大百姓の知り合いに電話でお願いしたところこの依頼はすぐに実現しました。

「今年（玉葱苗が）まことにバニック状態で、一年間使う野菜でどうしようかと思案に暮れていたが、君の力で入手できて本当にありがとう」と書かれている礼状の最後にはつんと行を離してこの句が書かれていました。

「西村君お前はいつも何かと人の眼につく事をしているが、決して自分がえらい者だと思っ
てはいけません。人間は有頂天で失敗する。すべて控えめでなくてはならない」と厳しく忠告
されているように思います。何かと独善的な振る舞いの多いことを四十三年前の担任から、そ
れとなく忠告されたことに感謝し、反省しなければならぬと感じています。

十一月二十五日 十一月はロータリー財団月間です。R財団のポリオプラス・プログラムプロジェクトについて、R財団委員長及び雑誌委員長より発表がありましたので、私は日本におけるポリオの発生とその撲滅運動についてお話しします。

ポリオは一般に小児麻痺と呼ばれています。一九五〇年代（昭二十五～三十五）にアメリカで大流行してりましたが、ポリオそのものが確定されたのは一九四八年（昭二十三）頃のことだそうです。それからワクチンの研究が進みますが、フランクリン・ルーズベルト大統領が国会議員になったときにポリオに罹ったことがアメリカでポリオ根絶を急速に進める一つの推進力となったのはよく知られています。

日本では一九六十年（昭三十五）、五千六百人の大量発病者が出て、大社会問題となりましたが、翌年以降ワクチンの輸入が始まり発生件数は激減しました。

私は一九四四年（昭十九）の夏に三重県下における大量発病の折、罹病いたしました。当時は職業軍人で、津の三十三連隊にいましたので、津の陸軍病院に三カ月、難病だということ で引き続き京大病院に六ヶ月入院して治療を受けたそうです。終戦間際の生きることだけが精一杯の時代に十分な治療を受けたことに感謝しています。戦後は、父の従兄の伝手を頼って阪大病院へ一年余り通院していたのを覚えています。

退院後は小児科の病気はすべて罹ったというほどいろいろな病気をしたそうですですが、そ

の後はずつかり病抜けして小学校に入る頃には松葉杖で何とか歩けるようになり、症状も固定しました。学校に行くようになってからいろいろ不自由はしてまいりましたが、今日こうして無事に過ごさせていただいております。日々感謝をしております。

十二月二日 戦後の焼け跡と廃墟の中からはい上り、今や不況のどん底と言われながらも、依然として世界第二位の経済大国であり、個人金融資産は一二〇〇兆円、それとほぼ同額の住宅及び社会資本を有するこの国が、その強大な経済力を發揮できないまま、長いながい不況のトンネルから脱出出来ず、その活路が見えないどころか、彷徨を続けているのは何とも不思議なことであります。

思えば、日本は明治維新以降、優れた時代感覚を備えた多くの先人と国民のたゆまぬ努力によつて、十九世紀末には、既に近代国家の仲間入り果たしました。残念なことに、先の大戦で多くの資産を失いましたが、やがて未曾有の戦後復興をとげました。

それは官僚主導で、供給者本位の規格大量生産を行い、金融統制による資金の傾斜配分政策により、繊維・鉄鋼・造船・自動車等々の業界に国家的支援を与え、輸出指導、技術導入、時に不況カルテルと欧米先進国へのキャッチアップ政策を護送船団方式で行ってきたところ、そのすべてが成功したからであります。

戦後四十年は、まさしく繁栄の四十年でありましたが、「ベルリンの壁」崩壊とともに冷戦が終えんし、世界全体が軍事の重石から解放されてからの十年間、その情勢変化に十分対応できず、この国は混迷を極めています。

ところで、戦後の日本経済の成功は多くの人は、冷戦構造という世界の二極対立の中で日本が西側諸国に属し、アメリカ型の資本主義・自由経済の中で成功したと考えていますが、実はそうではなくて、日本流の社会主義が成功したのではなかったのでしょうか。

官僚が業界を支配・管理し、規制による参入制限を行い、弱い業界を保護しました。国営事業や特殊法人も多く、金融は大蔵省の完全支配体制を敷いていました。財政は国から地方へ流す中央集権体制を採りました。福祉に至っては、「負担できる人が負担し、必要な人が受取る」平等思想、人権思想を全面に打出して行ってきました。これってみんな社会主義の思想なのであります。

冷戦構造終えん後の十年弱の期間は、今までの日本流社会主義からの脱却のときであったのであります。この時を、アメリカに言われるまま規制緩和、民営化、行財政改革をはじめ、経済や社会の構造転換をはかろうとしましたが、それらがうまくいかない。もちろん日本ばかりでなく、アメリカを除く世界中の国がうまく行っていない。

冷戦が終わったとき、次は自由競争を前提とした地球規模の競争—アングロサクソン型大競

争といつてもよい——が世界標準（グローバル・スタンダード）になると認識して、その対応を考えなければならなかつたのであります。ただし、国家や人種、宗教の違いからくる価値観、倫理観の違いは当然最優先して考えなければならぬのであります。ここが大切なポイントです。

最近の、この国の、まるでアメリカの属国のような政策に、国民は大きな不安を感じています。特に、外交や経済には強烈なアイデンティティを確立して、日本人の気概と強烈な国家的価値観を表現するものでなくてはなりません。これが欠けているからこの国は総不安に陥っています。

この不安から一刻も早く抜け出すために企業経営、個人生活、社会生活のいずれにおいても、過去の日本流社会主義の成功体験を早く棄て去り（成功の体験を記憶の中から消してしまつて）守旧にこだわらず（守旧の心地よい状況を記憶の中から消してしまつて）新しい世界標準（グローバル・スタンダード）をとり入れるとともに、国民一人ひとりが、日本国民としての強烈なアイデンティティを確立して日本人の気概を示さなくてはなりません。このときこの国の不安は消え去つて、景気は上昇に転じているのは言うまでもありません。

十二月十六日 前回の例会は、クリスマス家族同伴例会でした。総勢五十五名という大勢の

参加を得て、大阪の国立民族学博物館見学と水上バス・ディナーパーティーを行うことが出来
ました。

本日は本年最後の例会となります。七月一日（水）よりスタートした九八〇九九〇ロータリー
年度の上半期が今日で終わる訳です。「ロータリーの夢を奉仕に実践しよう」というテーマの
もとにいろいろと取り組んでまいりました。これを部門別に総括してみたいと思います。（以
下省略）

一月六日 新年明けましておめでとうございます。今日はロータリークラブとプロバスクラ
ブの合同例会であります。会長の時間を少し長くいただいておりますので、年頭の主張を正月
の新聞各紙から選んでお話をしてみたいと思います。

☆改めて「国の存立」を考える―質の高い日本へ新たな旅立ちを（産経新聞）

ゆとりのある品格の国を築くためにまず何をしても国の守りがある。冷戦終結後の世
界にあつて東アジア・日本の周辺でむしろ危険な要素が増えている。改めて国の存立とい
う根本命題を真摯に考える時期が来ている。北朝鮮、中国、ロシアの最近の動きを考えれ
ば、日米同盟の価値を再確認し、「日米防衛協力のための指針」関連三法案の早期成立と、

日米協力を効果的にさせ非常事態に対応できる「有事法制」の立法化及び「集団的自衛権」の行使を可能とする憲法解釈の変更に着手することである。

☆ゆがんだ戦後民主主義の軌跡を正し、活力ある日本の進路を開け（読売新聞）

東西冷戦下で、当時の中ソ両国に代表される社会主義勢力とそれに同調する進歩的文化人と言われる人達の影響もあって、本来の民主主義とは異なる日本独特の「戦後民主主義」の三つの大罪は、次の三点に要約できる。

一、戦争は国家が起こした。だから国家権力は悪だという論法で国家を敵視し、ひいては義務を怠って権利だけを主張する風潮を植えた。

二、機会の公平のみならず、結果の平等をも追求する平等至上主義とも言える誤った観念を生み出した。

三、社会主義国は平和な勢力で、米国は戦争勢力だという偏見に立ち、日米安保反対を煽り、一國平和主義を浸透させた。

いま世界のあちこちで政治・経済両面にわたり激変の大波がうなっている。北朝鮮の態度はイラクに酷似してきた。脅威の度合いはこれまでになく高まっているのに日本の態度が極めて鈍いのはなぜか。ここに戦後民主主義の弊害の典型をみる。現実的で具体的な安

全保障論議と現行憲法論議は日本を再生させる不可欠のプロセスだ。

以上二紙の主張は、通常右寄りと称せられる。日本はいま経済問題の解決に力点を注ぐ余り、国の存立と安全保障の論議が二の次になっている。北朝鮮・中国・ロシアの脅威からこの国を守るためゆがんだ戦後民主主義を総括し、今後の日本のあり方を多角的に再検討するときにすでに来ていると考えるのは右寄りの文化人ばかりではない。

☆国の品格を考えようリーダーに希薄な使命感（毎日新聞）

世界を見渡せば日本は依然として豊かな国である。危機と言われる現状も決して解決不能とは思えない。むしろいま大事なことはいったん立ち止まり、足元を見つめ直すことではないか。

一人ひとりの生き方を含め国の格とは何か、歴史、伝統、精神風土から何を学びとるのか。そのことを学びとる好機とすべきだろう。高い精神性と独自性を失った文化はどんなに軍事、経済大国になっても国際的な尊敬と信頼を得ることはできない。戦後宮々と築いてきた経済大国が行き詰まり、政治、行政、経済の枠組みやシステムの崩壊が進んでいる。各界各層のリーダーと目された人たちの責任感、倫理観の欠如は目を覆うばかりだ。

毎日新聞の主張には全く同感である。ところでこの国の品格とは何なのか。日本人の世界観、自然観、美意識に確固たる誇りを持って、そのアイデンティティを確立することこそ重要なであって、最近の日本のようにアメリカから言われるままに、なにもかもグローバルスタンダードと称して受け入れるのはこの国の品格を落としていくことになる。

☆「人間の安全保障」こそやわらかな社会をつくる（朝日新聞）

二十世紀は「戦争と殺りくの世紀」であった。人間の生命や健康・安穏な生活を守るこそこそが「平和」であり、安全保障のイロハだ。「人間の安全保障」という言葉は直接には途上国に住む人間を民族紛争や飢餓・人道上の危機から守ることを指す。「人間の安全保障」に對置されるのは「軍事」による安全保障だ。「軍事」によるそれは生命の価値が総体として重くなつたいま、役割はますます限定されてきた。とくに憲法で武力の行使を禁じている日本の場合「人間の安全保障」への貢献こそが国際社会に生きるだだ一つの道だ。

やわらかな社会をつくるための人間の安全保障をと訴える朝日の主張は何とも脳天気なことだと思う。こんな現実を無視した理想論はもつと将来に語ればよい。イラクや北朝鮮のような

世界の無法者がいる限り、軍事による安全保障の役割は重要である。ここにも戦後民主主義の弊害が残っている。

以上正月の新聞各紙の年頭の主張（社説）を要約して所感を述べてみた。北朝鮮・ロシアは経済瀕死、治安最悪、中国は富国強兵路線で台湾に武力発動する恐れがないと言えない。日本の周辺に何が起ころうとも不思議ではない。ここで国の対応を間違えば不景気どころではなくなる。

国際社会から尊敬され、信頼される国家を目指していま何をなすべきか。今年の政治の課題は大きい。

一月十三日 RI理事会は毎年一月をロータリー理解推進月間（Rotary Awareness Month）に指定し、会員にロータリーについての知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリーでない人たちにもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間と定めています。

ところで、ロータリーは毎週一回の例会で顔を合わせます。この「例会が楽しいこと」は大変重要なことであります。この楽しみがあるからこそロータリーはこんなに長く続いているのです。しかし、楽しいひとときだけが例会や会合の重要な唯一の要素ではないということにつ

57 THE ROTARIAN Oct. 1998に掲載された ELMER. JORDAN さん (元 R I 理事) の
A touch of ceremony という記事を紹介してみようと思います。(以下省略)

一月二十日 六四三四人が犠牲となり、約二十五万棟の住宅が全半壊した阪神淡路大震災から一月十七日で四年を迎えました。「被災地の住宅再建は大幅に進んだが、仮設住宅には今も約五八〇〇世帯が生活している。震災の打撃に不況が重なり、被災地の中小企業、地場産業は低迷から抜け出せていない。震災から四年を迎え、なお『復興格差』は重い課題だ。」と新聞は伝えています(朝日新聞・一月十六日)。

地震のあった直後の平成七年二月二十八日の小野高校の卒業式において、私は P T A 会長として次の通り申し上げたことを思い出します。「みなさんに奉仕—サービス—への理解を深めてほしい。このたびの阪神淡路大震災では多くの人がボランティアとして奉仕しました。また、将来自分の職業を通して世の中に奉仕する—ボケイショナルサービス—も大切です。目的をもつて寄付をする—ドネイション—も大事な奉仕です。その他にもいろいろな奉仕が考えられます。どうかみなさん、この世に生まれた以上、その持てるすばらしい資質を生かして、世のため、人のため、社会公共のため是非この奉仕の価値(奉仕することの意義)を認め、より多くの奉仕が実践できる人になってほしいと思います」。(省略)

よいお話をさせていただいたなど、この時期になるたびに思い出します。震災を機に起こった青年男女によるボランティア活動の活発化は日本の新しい潮流であり、今後私たちの社会が大きく変わっていくよい傾向のように思います。

一月二十七日 私たちのクラブは一九六〇年（昭三十五）一月二十六日に創立総会を行っており、本年一月二十六日で満三十九年をむかえました。来年は四十周年という訳です。

このクラブの創立されたころの日本の政治、経済、社会の状況について調べてみました。これは自分の生活体験と合わせ考えてみますと大変分かりやすいのですが、このクラブで一番メンバー数の多い五十代の会員についてみれば高校生か大学生の時代でありました。クラブの創立一年前の一九五九年（昭三十四）には皇太子の結婚式が行われ、マスコミが空前のミッチーブームに沸いたことは強烈に記憶に残っています。

一九六〇年に入り、折からの経済成長を背景に対米従属から一定の脱却をめざした日米安全保障条約の改定により未曾有の安保闘争を惹き起こし、六月十五日の第二次実力行使では全国で五八〇万人が参加、全学連主流派が国会内に突入、警官隊と衝突、東大生樺美智子さんが死亡し、政治的対立は頂点に達しました。そこで岸内閣は新安保条約批准書を交換、発効の後程なく総辞職し、池田内閣が成立しました。政府はそれ以降政治的対立を避け、所得倍增計画を

掲げて経済の発展をめざしました。つまり黄金の六十年代、高度経済成長の始まりであります。この年、東証ダウ式平均株価は千円の大台を突破（二月二十日）その後も上昇を続けました。国民総生産（GNP）は十二兆三千億円、人口は九四〇〇万人でありました。景気は岩戸景気の最中でありました。

二月三日 一九〇五年二月二十三日米国イリノイ州シカゴにおいて青年弁護士ポール・ハリスがロータリーを創始しました。ロータリーではこの日をロータリー創立記念日と称しています。

ところで、ロータリーの創立された一九〇五年（明三十八）の日本はどんな状況であったのかについて述べてみたいと思います。

一九〇五年（明三十八）は日本にとって特記すべき年でありました。それは日露戦争に勝利をした年であるからです。一九〇四年（明三十七）二月四日の御前会議で開戦を決定し、ロシアは九日に、日本は十日に東洋平和のためにと宣戦布告をして戦いは始まりました。

満州を北上する主力部隊（第一、第二、第四軍）と遼東半島の南端の旅順港の裏山に設けられた一大要塞を攻撃する部隊（第三軍）に分けて戦われましたが、旅順の二〇三高地（後に爾霊山と改名）の戦いは、熾烈を極めました。一九〇五年（明三八）新年早々大戦勝利の朗報

が大きく報道されました。一月一日旅順司令官ステッセルは第三軍司令部に軍使を出して降服開城を乞い、水師營で会見し、戦鬪行為をすべて中止し、一五五日の攻防が終わりました。

それにしても戦争で失ったものは大きかったです。動員した兵力一五〇万人弱、戦死者約八万人、傷病兵は十三万人、捕虜となった日本兵二千人、軍馬は三万九千頭が死に、九十一隻の艦船が沈没破壊されました。戦いに要した費用は十五億二千万円にも及びました。

日露戦争で世界最大の陸軍国ロシアに対して極東の小国日本がともかく善戦したことはその後アメリカ、イギリスの後援を受けやすくし、既に締結されていた日英同盟はさらに強化されることとなりました（一九〇五年八月・明治ニュース事典 Vol. 七参照）。

わが国が始めて経験した近代的戦争は、有色人種の国家が白人国家に勝利した最初の戦争であるところに大きな意義が認められ、これから世界の歴史の流れが大きく変わっていくのです。

一九〇五年は日本にとって本当にすごい年であったのです。私はこの時代の社会状況を『坂の上の雲』（司馬遼太郎）、『ポーツマスの旗』（吉村昭）、『静寂の声』（渡辺淳一）、『ステッセルのピアノ』（五木寛之）、その他渡辺昇一の多くの著作、例えば「かくて歴史は始まる」を読んで断片的に知ることとなりましたが、二十世紀初頭の日本の社会とその行動に日本人の気概というか日本人のすごさを感じます。こんな時代にロータリークラブはアメリカのシカゴで創始されたのです。

二月六日 本日は念願の皆生温泉・家族同伴親睦旅行（例会）を実施いたしました。家族同伴一泊旅行は約二十年ぶりと同っております。

私はいつもローターリーの夢についてお話を申し上げておりますが、一般的に夢や希望といえは一体何を指すのでしょうか。答えは大変難しく、それは実にいろいろで各人各様、全部異なるということになるでしょう。

そこで、夢や希望を少し類型化して考えてみますと、第一は、物や財の豊かさを実現することでしょう。戦後貧困の中から出発した多くの日本人にとって夢や希望の第一は、自動車、電気製品、服飾、宝石と身の回りを物で一杯にすることと、現金、株式、土地、住宅といった財を多く得ることでしょう。夢や希望の実現の第一段階と言ってもいいでしょう。なぜならお金で幸せは買えないと思いますが、お金がないから幸せになれないというのもある程度事実であるからです。

第二は、時間が自由になるということでしょう。好きなことができる時間を持つことでしょう。趣味や旅行に費やす時間は多いほど楽しいと思えます。仕事や通勤であくせくするのは夢や希望のないことです。

その他、事業欲や恋愛など、いろいろな形の夢や希望があると思えます。総じてそれらはすべて安心を得ることが前提になっています。子供の教育、健康、病気や老後の備え、もつとい

えば国の治安までが安心できる状況になっていなければ本当の夢や希望は実現いたしません。本日は楽しいひとときを得てみなさまと一緒に夢を実現して、ロータリーはいいなあと感じたいものです。

二月十七日 今週の日曜日の二月十四日にグリーンピア三木において東播第三分区のIMが行われました。IMは毎年二月に分区代理によって計画されますが、これは分区内の会員が一同に会し、情報交換を行い、親睦を深めるもので、その内容は一般討論会であり、協議も議決もないのが原則となっています。

今年のIMは、メインテーマを「二十一世紀のロータリーを語ろう」として、本会議では、職業奉仕・国際奉仕・社会奉仕・青少年奉仕・会員増強・選考委員会・R財団と米山委員会・親睦委員会・SAA・会長・幹事の八つのサブテーマ別に各テーブルに十四～十五名の会員が集まりテーブルリーダーを中心に自由に討議しました。

二月二十四日 今日は私たちの夢をぶち壊すかも知れない三つの心配について述べてみたいと思います。第一の心配は、正月の第一例会でも申しあげました朝鮮半島が危ないという心配です。北朝鮮という世界の無法者国家の核開発疑惑であります。今月の二月十六日は金正日の

誕生日だったので、この日に二発目のテポドンが、発射されるのではないかと在日米軍をはじめ陸・海・空自衛隊は警戒体制に入っていたそうです。頼みの米朝枠組み合意の破綻の危機は現実化の予想を深めていますし、核開発とミサイル開発が組み合わされた時の脅威を思えばぞっとする話です。米朝合意の遵守と日本の有事法制の整備は急務といえるでしょう。

第二の心配は、アメリカの経済です。昨年九月と十月にアメリカの個人貯蓄率が六十五年ぶりにマイナスに転じました。これはきつとアメリカの国民が自分たちを裕福だと感じて、高株価で儲けた人々が新たに手に入った富を消費に回しているのです。これは将来必ず大問題になると思わなければいけません。

消費が可処分所得を超えていると言うことは設備投資に回る余剰資金がないということです。現在のアメリカの四％という経済成長率がこのマイナス貯蓄率によって達成されているとすれば、それは短期的な問題を長期的な問題にすり替えて解決しているだけで、このツケと払うときはそう遠くない（レスタースロー日経ビジネス一月十一日号八十七ページ）。アメリカの経済の後退はそのまますぐに日本に響く。いつアメリカのバブルがはじけ、株価が急落するのか心配でならないのです。

第三の心配は、日本の景気です。二月十六日の経企庁の二月の月例経済報告や同日の日銀の金融経済月報に言われる通り本当に「極めて厳しい状況にあるものの変化の胎動も感じられる」

(経企庁)、「悪化テンポが緩やかになっている」(日銀)のでしょうか。たとえそうであるとしても、景気は九九年度に上向いた後二〇〇〇年には再び後退する。

私の三つの心配が杞憂に終わることを願わずにはいられません。みなさんはどのようにお考えでしょうか。

三月三日 米山留学生の楊芳瑜さんは本年三月をもって兵庫教育大学大学院を修了されました。おめでとうございます。後ほど、お別れのスピーチを伺うこととなっています。

今日は三月三日で雛祭りであります。女の子のいる家庭では雛人形やその調度品を飾り、白酒、菱餅、あられ、桃の花などを供えてお祭りをいたします。

三月三日は上巳じょうしの節句といい五節句の一つであります。ちなみに五節句とは人日じんじつ―正月七日、上巳―三月三日、端午たんご―五月五日、七夕しちせき―七月七日、重陽じゅうよう―九月九日をいいます。

今日では節句といえば、上巳の節句(女子の節句)と端午の節句(男子の節句)を指すようです。「怠け者の節句働き」ということわざがあるように、昔から節句の日には農作業などを集落全体で休む習慣があったそうです。もともと節句は季節の変わり目を表し、体調を崩しやすい時で、十分休養をとることが必要というわけです。

女の子が生まれて初めて迎える節句を初節句と申しまして、特にお祝いをいたします。母親

の実家から雛人形や調度品が贈られてきます。

私どもの家族にも三人の女の子がいますが、この雛人形に守られて無事平穩に成長し、末っ子が今春大学を卒業し、四月一日より就職いたします。うれしいことでもあります。

さて、みなさまのお家ではこの上巳の節句をどのようにお祝いされているでしょうか。

三月十日 小渕恵三首相直属の諮問機関である経済戦略会議（議長・樋口広太郎アサヒビル会長）は二月二十六日、二十一世紀へ向けた日本経済の再生に関する最終報告を決定し、首相に提出いたしました。

まず日経紙から、最終報告の要旨―活力と魅力あふれる日本の創造に向けて―と題する部分を読んでみます。

日本経済はいま、「海図なき新たな航海」に旅立とうとしている。しかし、眼中に広がる光景は決して暗黒の海ではなく、希望と活力に満ちた輝かしい未来である。日本の経済社会は急激な変化を嫌い、既得権益の維持を優先してきた結果、改革の歩みは遅々としていた。しかし、経済のグローバル化等で経済構造変化が予想を上回るスピードで進行する中、変化に対する後追いの対応は将来への希望をも失わせかねない。もちろん、二一世

紀の日本が目指すべき社会は「弱肉強食」の無秩序かつ破壊的な競争社会であってはならない。個々人の「選択の自由」と「失敗を許容し、再挑戦が可能な風土」に裏打ちされた真に安心できる社会でなければなるまい。

読み終えて感じることは、アメリカ型の「競争社会」を経済のグローバル化として肯定的に捉え「自己責任」路線を展開している戦略会議の報告は、「過度に平等、公平を重んじる日本型システム」が「リスクへの挑戦を困難にしている」という認識に立ち、規制緩和による成長力の回復という考え方や、失敗のリスクに対して「自己責任」をとらせることで市場競争を活性化させるという米国型競争社会を随分と強調しているな、と感じる事です。

日本型ぬるま湯競争社会から自己責任型の厳しい競争社会が今に到来するであろうことは容易に理解できますが、失敗者や社会的弱者に対するセーフティネットの構築と社会の許容と理解をも求めたいものであります。

三月十七日 私は本年度の R I のテーマ Follow your Rotary dream の日本語訳「ロータリーの夢を追い続けよう」を始めて見たとき、大変よい日本語訳だと思いました。なぜなら、follow という動詞には、追っていく、従うという意味はあっても追い続けると言う意味はなく、

follow up」と言っではじめてどこまでも追求すると言う意味になるのです。つまり、ロータリーの夢を追うことを持続する、継続することに大きな意味があると思うのです。

今日はこの夢を追い続けること、持続すること、継続することとContinuityの大切さについて所感を述べてみたいと思います。R Iは毎年会長が変わるたびに新しいR Iのテーマを発表します。これがほとんど単発的で継続性がなく、R I会長の選出された国柄、宗教、文化等を色濃く表しています。

ロータリーの夢を追い続けること、持続すること、継続することは大変難しいことではあります。大変重要なことだと思います。その場限りの夢を追うロータリアンは大勢いると思いますが、信念に基づいたロータリーの夢を追い続け、夢の実現に向かって努力することは重要です。

三月二十四日 私は、三月十五日に平成十年度所得税の確定申告の業務を済ませました。この印象を申しあげますと「悪い、とにかく悪い」の一言に尽きます。会計事務所を開業して三十年になりますが、今までで一番悪い。卸、小売、飲食等の商業系の人はとにかく売れていないというのが実情です。消費者が財布の紐を固く締めているので、どんなに頑張っても売上が伸びない。製造、加工、修理等の工業系の人は仕事量が減って大変です。建築、土木系の人も

同じことです。

私どものようにいろいろな職種の方々と係わっていますとこの時期「今はどんな商売の人が儲かっていますか」とよく聞かれます。私は「今は昔と違って儲かる商売などありませんよ。でも、どの商売でも儲けている人はいますね」と答えにならない答えをしています。

私どもも商売の成功者（今風の言葉で言えば勝ち組）ばかりに関与している訳ではありませんし、個別の業界の経営のノウハウを持つている訳でもありませんので、具体的に金儲けの方法などご指導できる訳はありません。「経営体質を変えなくてはなりませんね」だとか、「儲け仕事を中心に商品構成を変えてはどうですか」だとか、「一層思い切って赤字部門を損切りしてはどうですか」などと話しています。

三月三十一日 今日、多くの上場会社の決算期末となっています。『会社四季報』に掲載されている会社は三三九社あります（一九九九年第二週春季号）。これらの会社の内、三月末決算会社の業績予想は前期比二一・四％経常減益となっています。

ところで最近会長のところへR Iの九七年六月三十日、及び九八年六月三十日終了の会計年度の年次財務報告が送られてきましたので、ご要点のみお知らせいたします。（省略）それでは九七～九八会計年度の二六八〇地区の決算はどのようになっていのかと申し上げますと、（省

略) 私たちの会費の内から支払われる分担金の用途と規模について知っておくのも大切なことです。

四月七日 四月は「ロータリー雑誌月間」です。ところで、ロータリアンには三大義務があります。第一の義務は、会費を納入することです。第二の義務は、例会に出席することです。第三の義務は、ロータリーの公式機関誌「ザ・ロータリアン」または公式地域雑誌「友」などを購読することです。第一番目と第二番目の義務は明確ですが、第三の義務はみなさん半分以上しか実行しておられないのではないのでしょうか。すなわち、購入はしているが読了はしていない人が多いのではないかと思います。

次に、RI会長主催アジア会議についてお話しいたします。ジェームス・L・レイシーRI会長は、世界の五地域で会長主催会議を開き、ロータリーの夢を語り、さらにその夢を実現する方策について討議されます。そのため、アジアでの会議が来る五月六日～八日京都・宝ヶ池の京都国際会議場で開催され、会長と幹事が出席いたします。

四月十四日 次回の四月二十一日の例会には、元RI理事の今井鎮雄先生の卓話をお願いいたします。先生の卓話の時間を十分にとりたいと思いますので、本日講師のご紹介を申

しあげたいと思います。

今井先生は同志社大学をご卒業になり、神戸のYMCAに勤務されていました。私は昭和二十八年小学校五年生のときに、YMCAが主催する肢体不自由児のキャンプ（香川県土庄町余島）に参加したのを覚えています。この時の隊長さんが今井先生でありましたので、四十五年前からお名前を存じ上げていたということになります。

YMCAのキャンプもたった一回参加しただけで、その後すっかり忘れていましたが、大学に入ったところ今井先生が関学に出講されていました。今井先生は一九六一年（昭三十六）以来のロータリアンだそうですので、私が大学に入った年にロータリークラブに入会されていることになりました。

私は、一九八二年六月（昭五十七年六月）に小野ロータリークラブに入会させていただきました。今井先生はこの年の前年に地区ガバナーになられています。今井ガバナーの年度は、ロータリー創立七十五周年記念の年で、画期的なプログラムが試みられました。その一つに国際理解賞の設立があり、第一回目の受賞者は、ネパールでの奉仕を終えて神戸におられました岩村昇博士が、その中で呼びかけられたのがアジアの農漁村の草の根の人々の生活を考えようとするPHD運動でありました。

全国のロータリークラブの方々と、当地区の協力のもとに生まれたPHD運動もその後すば

らしい活動を続けておられますが、今井先生は今もこの協会の理事長をされています。

今回私が会長に指名されたのを機に、この年度中に小野クラブへお越しいただき、卓話をし
てほしいと願っておりましたが、先生には多くの役職がありますので半ばあきらめておりまし
た。ところが過日の四地区連合地区大会の折に、「西村君、小野へいつてあげよう」というこ
ととなり、今回の卓話を実現したという訳です。先生は国際ロータリー会長主催アジア会議の
実行委員長として超多忙の日程を割いてお越し下さることに感謝を致しております。どうぞ、
来週の例会を楽しみにして下さい。

四月二十一日 今日の例会は、元国際ロータリー理事の今井鎮雄先生をお招き致しておりま
す。先生には来る五月六日～八日京都の国際会議場で開催されますRI会長主催アジア会議の
大会実行委員長として超多忙の日程を割いて私どものクラブ例会にお越しいただき本当にあり
がとうございます。

四月二十八日 前回の例会には元RI理事今井鎮雄先生の和やかで、友情あふれる感銘深い
卓話を聞くことが出来ました。

先生は二〇〇〇年あるいは二十一世紀は世界の歴史の大きな節目であり、それゆえにロータ

リーは今何をなすべきかが問われていると話を始められ、そのヒントとしてネパールの医療活動に尽くされた岩村昇先生の病院建設の話をされました。

これは岩村昇先生がネパールを去る時に残った財産をネパールの子供達に分け与えたところ、その子供達が大きくなり、ロータリアンとなって先生のご意思を継いで、日本のお父さん―岩村昇博士の記念病院を造ろうと目論んでいるというお話でした。

私はこの話を聞きながら、人間が幸せになるために、社会をよくしていくことは実にロングスパンだなど思いました。一九〇五年に生まれたロータリーは、約一〇〇年の年月をかけて今日このように発展してきましたが、これも実にロングスパンです。

私はいま、次のような意味の三節からなるロング・フェローの詩を思い出しています。

私は空中に向かって矢を放った

どこへ行ったかも分からない

私は空へ向かって歌を放った

どこへ行ったか分からない

それから長い長い月日が過ぎて

矢が樫の木にしっかりと刺さっているのを見た

歌が友達の口から歌われているのを聞いた

ロータリー運動といのは、人間が幸せになるため、社会をよくしていくため、空中に向かって矢を射続けるようなものです。矢が見られるか、見られないかはわからない。それでも矢は射続けられるのです。

RI会長始め、今井先生のようなよき指導者は、いろいろなロータリーの矢を射ち続けられています。その結果私たち一人ひとりのロータリアンは、長いながい年月を経て、矢が檜の木にしつかりつき刺さっているのを見るように、ロータリーの奉仕の理想を實踐することができるようになり、一生が終わるとき「ロータリーに入っていてよかった」ということになるのです。いろいろなことを考えさせられるすばらしいお話でした。

五月十二日 今日卓話のゲストに滝野町図書館の直井館長をお迎え致しております。後ほど「最近の図書館事情」についてお話をお聞かせいただくことになっております。

今日は私の読書についてお話しさせていただきます。私が本好きになって現在のようになくさんの本を読むようになったのは、税理士や、会計士の受験勉強をやめた二十八才ぐらいからのことです。それまでは、受験科目の専門書や参考書を中心に読書しておりましたので、専門外の本を読むようになったのはそれ以後です。

現在の私の読書をジャンル別に分けてみますと、多い順に文芸書（一般、歴史）、評論、経済・

経営書になります。私は、推理小説や漫画本はほとんど読みませんし、ハウツーものや暴露本は読みません。雑誌は「日経ビジネス」を三十年ぐらい、「ボイス」を十年ぐらい定期購読しています。

なぜそんなに多くの本を読むのか。その効用は何かと言いますと、私はたとえば、一般文芸書では小説という虚構の中に人間の生きるよろこびや悲しみ、安心を共感できること。歴史書では志を高めたり、気概を高めたりして、生きることへの自信と誇りを持つことではないかと思えます。評論や経済・経営書はただ単に興味があり、好きだという以外読書の理由はありません。

それにもう一つの読書の効用は、特に意識している訳ではありませんが、短くてわかりやすく、外連味のない文章を、識らず知らずの内に書くことが出来るようになり、少しはボキャ貧（語彙の不足）の解消に役立つことではないでしょうか。

私はこのようにたくさんの本を読み、たくさんの文章を書いて、たくさんの人と話をして、多くの友を得ました。特に、今年はロータリークラブの会長をさせていただいて本当によい機会を得ました。心から感謝申し上げます。

五月十九日 今日例会は職業奉仕委員会の担当で、職場訪問例会となっています。卓話の

ゲストとしてお願いいたしました吉田省三先生には、後ほど、播州三草藩の武士の生活と仕事についてお話を聞かせいただきたく存じます。

職場訪問はもととクラブ会員の事業所を輪番で訪問する職業奉仕のプログラムであります。最近では、トクセン工業(株)、サガシキ印刷(株)、日本臓器(株)小野工場・社研究所、共進牧場等があります。変わったところでは、とどろき荘、自衛隊青野原とん地、国宝浄土寺、遠方では門真市の松下電器(株)カラーテレビ事業所などがあります。

今日は社町有形文化財三草藩武家屋敷旧尾崎家住宅の見学のため、隣接の社国際学習塾を訪問しています。

ところで、先ほど申し上げました例会の趣旨と経緯から申し上げまして、今日の例会は正確な意味では職場訪問とはなっていませんが、よく考えてみますと平時の武士は現在の行政官、一朝ことあるときの職業軍人のようなものであったように思います。

私には全く自信のない話なのでありますが、みなさんは武士の生活や仕事についてどのような考えでしょうか。吉田先生の話を聞き、武家屋敷を見学して、江戸時代の武士の果たした役割と仕事(職業)みたいなものを考えてみようとするのが本日の例会の趣旨であります。

五月二十六日 私 は二月二十四日の会長の時間において、途轍もなく大きな三つの心配につ

いてお話を致しました。それは、一、朝鮮半島が危ない、二、アメリカの経済が心配、三、日本の景気回復が不安の三つであります。これらは今のところ杞憂に終わっていますが、みなさんは如何お考えでしょうか。私の意見をもう少し具体的に述べてみます。(省略)

次に、五月中の報告を三点申し上げます。第一点目の報告は、五月六日～八日京都において国際ロータリー会長主催アジア会議が開催され、会長以下四名が五月七日に出席いたしました。第二点目は、五月十六日、自衛隊青野ヶ原駐屯地創設二十三周年式典が開催され、会長が出席いたしました。第三点目は、五月二十二日、小野加東青年会議所創立三十五周年式典が行われ、会長以下OB多数が参加いたしました。

六月二日 私がこのクラブの会長を引き受けることとなったとき、私の推薦者であり、業界の先輩である土井康二郎先生より「ロータリークラブの会長というのは、一生に一回だけそれも一年だけさせていただくものだ。精々頑張らなさい」と言われたことを思い出します。

なるほど一生に一回、一年か。これは大変なこと、思いがけないことになったが、私ひとり、できる訳でなし、幹事という補佐役もいることだし、何とかなるだろう、と会長職を引き受けいたしました。(中略)

私がロータリークラブの会長を努めさせていただき、毎週一回会長の時間でお話しさせてい

ただこの一瞬は、私にとっても皆さまにとっても一期一会、この機会は二度と再びやってまいりません。だからこの時間をいい加減にしない。ロータリーの例会は奉仕の心を学ぶ人生の道場なのですから、大げさに言えば会長は命がけで話さなければならぬのです。

私は必ずしもこのことを十分に成し得たとは思ってはおりませんが、回数だけは欠けることなく全四十八回をこなすことが出来そうです。退屈な話、面白くない話もあった筈であります。が、毎例会私の話を聞いていただいて本当にありがとうございます。

昔から弱い犬ほどよく吠えると言います。また、地位や立場のある人の寡黙ほど、人に畏怖を与えることはないとも言います。このように毎回会長の時間を行うことに、当初は大きく躊躇をいたしました。が、勇気を出してやってみて、本当にいい勉強をさせていただいたなと心から感謝をしています。

六月九日 来る六月十三日から十六日まで、シンガポールにおいて一九九八～九九年度国際ロータリー年次大会が開催されます。当クラブから、松井国際奉仕委員長のお世話で、会長以下二十四名が参加を計画準備しています。六月十一日（金）に出発をいたしまして、六月十五日（火）に帰ってまいる予定であります。

国際大会は、ロータリー家族の世界的会合でありますから、国際大会の本来の目的を減じな

い限り、社交および余興番組でロータリーの親睦を祝うことは妥当とされ、通常その国で一番有名なショーが見られます。

私は過去四回参加しており、(ソウル―韓国、メルボルン―オーストラリア、台北―台湾、グラスゴー―スコットランドUK)、今回は五回目であります。何回参加いたしましたしても、その折々の感動はすばらしく、ロータリーに入ってよかつたなと感じます。ショーばかりでなく、しっかりと本会議に参加をいたしまして、その内容を次回の例会においてご報告を申し上げる予定であります。

六月十六日 六月十三日から十六日まで、シンガポールにおいて第九十回国際ロータリー国際年次大会が開催され、当クラブから二十四名(会員十七名、夫人七名)が参加をいたしました。

私たち大会登録者は六月十三日(日)に行われました第一回目の本会議に参加をいたしました。本会議は昼と夜の二回行われましたが、大会の総計は登録者数一万六六七一人、国数は一二六カ国でありました。オコンネル大会委員長の開会の言葉に始まり、国際ロータリー加盟一二六カ国全部の国旗の入場式がありました。その最後に本年度新たにRIに加盟したアゼルバイジャンとキルギスタンの国旗が紹介され、大きな拍手が起りました。その後主催国シンガ

ポール国歌とR I会長出身国アメリカ国歌が斉唱され、引き続きジェームス・L・レイシーの会長の挨拶がありました。

引き続き行われたエンターテイメントはシンガポールの神秘的なショーでありました。これは後程ビデオでも紹介いたします。

六月十四日(月)には日本の登録者のための朝食会が私たちの泊まっておりましたリッツカールトンホテルで行われ、私と松井幹事が出席いたしました。参加者が一〇〇名以上の大規模朝食会でありましたが、会場では多くの二六八〇地区の元ガバナーや今井鎮雄元R I理事とお会いすることができました。

今井鎮雄先生は私たちのクラブの提案「砂漠に植林、砂漠の緑化」について、メインテーブルの多くの国際ロータリークラブ役員の方々に紹介して下さいました。最後にシンガポールについて少しだけ述べます。(以下省略)

六月二十三日 本日は職業奉仕委員会最後の事業「職業奉仕賞」を授与するため三名の優秀外国人社員の方々と、卓話の講師に内橋恵子様にお越し願っています。ところで、昨年(七月一日)に始まりました九八〜九九年度もあと会長杯ゴルフと最終例会を残すのみとなりました。一年間を振り返ってみますと、随分といろいろなことがありました。一生涯の内たった一回、

一年だけみなさまから与えられた会長の職務を精一杯やらせていただきました。私にとって正に夢とロマンの一年でありました。

時間の都合上細やかな報告は文章でさせていただきますが、(一)多くの親睦活動、(二)充実した週報、(三)砂漠緑化の提案、(四)国際大会参加、(五)R財団、米山奨学会への多くの寄付、(六)例会日程順序の変更、(七)西宮恵美寿のチャーターナイト参加等々実にいろいろなことがありました。と申しましたが、この一年間私が会長として成し得たことはせいぜい折々の事業の始めの挨拶と幕引きぐらいのことであり、こんなに多くのことが出来ましたのも多くの理事・役員・委員長そして会員のみなさまのご理解とご協力のお陰です。心から感謝の意を表します。

一年間を回顧して 一九九八年七月一日から始まりました一九九八～九九年度の例会は、七月一日(水)から始まって、翌六月三十日(水)に終わるまでの間四八回ありましたが、会長、幹事ともに全出席することができました。

ジェームス・L・レイシー会長は一九九八～九九年度の国際ロータリーのテーマを、「ロータリーの夢を追い続けよう」と定められました。私は、これを受けて「ロータリーの夢を奉仕に実践しよう」をこのクラブの年間テーマとしていろいろな事業と取り組んでまいりました。



筆者近影。小野ロータリークラブ50周年記念式典にて

これを部門別・委員会別に総括してみたいと思います。(省略)

ロータリーの夢を追い続け、奉仕を実践し、社会の改善への提案をし、次なる二十一世紀へ向かって歩んできた一年であったと思います。と申しましたが、私ひとりで出来たことは、せいぜい折々の始めの挨拶と幕引きぐらいのこと、その多くは理事・役員・委員長のみなさまをはじめ、全会員のご理解とご協力により成し得たことであり、心から感謝を申し上げます。

六月三十日 いよいよ本日をもって一九九八〜九九年度の

の最終例会となりました。

私はこのクラブの会長になって一年間の全部の例会において「会長の時間」を語り続けました。語り足りないところは文章にして週報に掲載しました。

このことは、最初は大きな負担でありましたが、そのうちにだんだんと面白くなってまいりました。会長の時間は、会員のロータリー情報教育のためにあるといわれていますが、実際は、

会長の自己顯示や支配欲にすぎなかったかも知れません。

一年間いろいろな勉強をさせていただきました。善くも言われ、悪くも言われるのが人の世の常であります。悪く言われたときは、これは大変、大変と改善に努力し、善く言われたときは、感謝して振る舞ってきました。もしそうでなければ、まだまだ努力不足で未熟だということとあります。本当に一年間ありがとうございました。

※この年度の地区大会において、小野ロータリークラブは、R I会長賞、二六八〇地区ガバナール賞、個々のロータリアンに対する功労賞の三賞をいただいた。

※二十二年四月十日、小野ロータリークラブは創立五十周年記念式典・祝賀会を行った。私は、副実行委員長として創立五十周年記念誌の編集にかかわり、記念祝賀会では「開宴の言葉」を申し述べました。

何よりもうれしかったことは、小野ロータリークラブ創立五十周年記念を機に、クラブの名称を「小野ロータリークラブ」から「小野加東ロータリークラブ」に変更したことです。「播磨の国 賀毛の郡 加東」という由緒ある地域を代表する名称が入り、私の生涯の主張である「小野・加東はひとつ」の願いをクラブの名称にすることができたことを本当にうれしく思います。